

# 看護学の博士教育プログラム

## — 三重大学における看護学専攻博士後期課程の開設とその意義 —

畑下 博世<sup>1)</sup>, 林 智子<sup>1)</sup>

### Ph.D. programs in nursing science: implication of the inaugurating nursing's Ph.D. program in Mie University

Hiroyo HATASHITA and Tomoko HAYASHI

三重大学医学部看護学科に、学科発足以来の念願であった看護学専攻博士後期課程が平成 28 年 4 月、開設されることとなった。開設に向けての取り組みは容易ではなかったが、そのプロセスを通して概観すべき点があった。一つは世界と日本の看護学博士の動向であり、もう一つは三重県の地域特性と看護の動向であった。これらを振り返りながら、三重大学の看護学専攻博士後期課程を概説する。

#### I アメリカにおける看護学博士の動向

アメリカ看護大学協議会 (2010) によると、アメリカの看護学博士課程は大きく 2 つに分けることができる。一つは研究に焦点をあてた Doctor of Philosophy degree (Ph.D.) であり、Doctor of Nursing Science (DNS, DSN, DNSc) もこれに含まれる。これらは、看護科学者や研究者を育成するもので、プログラムは科学的な内容や方法論に焦点があてられ、オリジナルな研究が義務付けられている。この学位は研究や学問のキャリアにとって最も高いレベルの教育となり、修了者は科学者、つまりナーシング・サイエンティストとしての役割が期待されている。

もう一つは、実践に焦点をあてた Doctor of Nursing Practice (DNP) である。臨床での実践教育を博士レベルまで到達させるために、修士課程におかれていた高度実践看護師 (Advanced Practice Registered Nurse) を、2015 年までに博士課程レベルで教育するというものである。この学位は、まったく新しいというものではなく、約 30 年前、1979 年に Case Western Reserve University が

最初に Doctor of Nursing (ND) として開設したことにはじまる。その後、複雑な社会環境と臨床現場の中で様々な議論がなされ、2006 年にアメリカ看護大学協議会 (2006) が看護実践博士の教育プログラムを提示した。このプログラムは、特定分野の高度実践看護師を目指し、エビデンス・ベースでの革新的な実践やリーダーシップに焦点を当てている。DNP は高度実践看護師としての役割を果たし、個人や家族の看護とマネジメント、健康政策において責任と責務を果たすことが求められている。看護学分野以外でも Professional Doctorate と Ph.D. の議論がされ、産業分野では、現場を重視した Professional Doctorate の重要性が増していることが指摘されている (Fink, 2006)。これは産業の革新的発展を学術的観点から支援するものである。三重大学においては、日本初の地域イノベーション学研究所が設置されており、問題解決のための新しい概念と方法を創造し、産業分野への貢献がなされている。このような現場を重視した Professional Doctorate の教育課程は、看護学の発展のためにも重要であると考えられ、日本の看護学の学問分野においても議論を進めなければならない課題である。

この 2 つのプログラムの修了時のゴールやコンピテンシーは、当然、異なる。DNP プログラムも重要であるが、当看護学科が目指したアメリカ看護大学協議会 (2010) による Ph.D. コアカリキュラムを表 1 に示す。カリキュラムの要素は、「科学を発展させる」「学問領域を牽引する」「次の世代を育成する」の 3 つである。

アメリカの大学では、アメリカ看護大学協議会が提示した Ph.D. と DNP のプログラムを参考にし、その 2

1) 三重大学医学部看護学科

表1 アメリカ看護大学協議会による Ph.D. コアカリキュラム

<p>1. 科学を発展させる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特定の研究分野において、より科学的な深みを与えるための十分なフォーマル／インフォーマルな学習経験</li> <li>・ 科学の歴史と哲学</li> <li>・ チームサイエンスを含む科学的なメソッド</li> <li>・ 高度な研究デザインと統計手法</li> <li>・ 研究倫理</li> <li>・ データ、情報・知識のマネージメント、処理、分析</li> <li>・ 知識の獲得方法と思考の習慣</li> <li>・ 学問の概念と構成要素</li> <li>・ 学際的メンターを含むメンター指導による研究への参加経験</li> <li>・ 研究助成金と公表のための原稿の準備</li> <li>・ 特定の看護分野とその応用を伝えるために必要となる体系化された臨床もしくは実践経験</li> </ul>
<p>2. 学問領域を牽引する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 看護および他の学問の理論的・科学的基盤</li> <li>・ 看護科学とその応用を伝える実践的な知識</li> <li>・ 看護文化と実践環境</li> <li>・ 健康政策に影響を与えるための戦略</li> <li>・ 専門的な価値</li> <li>・ 学問的書き方</li> <li>・ 健康政策と専門的意見に関連したリーダーシップ</li> </ul>
<p>3. 次の世代を育成する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 看護学分野内および看護学以外の分野とのコミュニケーションスキル</li> <li>・ 看護学分野内および看護学以外の分野との研究チームにおけるリーダーシップ</li> <li>・ メンタリング</li> <li>・ 文化的配慮をもった科学におけるリーダーシップ</li> <li>・ 教えることと学ぶことのアートとサイエンス</li> <li>・ メンターの指導を受け、統合され、応用された経験</li> </ul>

つのプログラムを一つの看護学部で有効に共存させる取り組みが行われている (Magyary, Whitney & Brown, 2006).

## II 日本の看護学博士の動向

まず、日本における看護学系博士課程設置数を概観する。看護学博士課程は、昭和 63 年に聖路加看護大学に初めて開設された。聖路加看護大学の博士号の取得第 1 号となった黒田裕子氏 (2005) は「あらん限りの自身の力を出し切ったこと、全教員が一人のために集まってくれ、学位取得を祝福してくれたこと」と自著で述べているが、そこには国内最初の看護学博士誕生までの厳しい過程を読み取ることができる。その後は、平成 5 年に千葉大学、平成 7 年に日本赤十字看護大学、平成 9 年に北里大学に開設され、平成 27 年 4 月 1 日現在、保健学専攻等も含めた看護系大学院博士課程は 76 校となる (文部科学省高等教育局医学教育課, 2015)。このうち、国立大学法人 42 校の中での設置は 29 校

(69%) である。博士課程を設置していない国立大学法人は、旭川医科大学・岐阜大学・浜松医科大学・福井大学・三重大学・滋賀医科大学・愛媛大学・香川大学・高知大学・島根大学・大分大学・佐賀大学・宮崎大学の 13 大学で、地方大学において設置されていないことが分かる。平成 27 年 4 月 1 日現在、看護系博士課程が 1 校も開設されていない県は、島根県、三重県、滋賀県、奈良県、福井県、佐賀県、愛媛県、香川県等で、地域における看護の発展のためにも、必要最低限として各県に一つの看護系博士課程の設置が望まれる。

日本看護系大学協議会 (2014) は、アメリカ看護大学協議会のカリキュラム・コア要素や中央教育審議会の答申を考慮しながら、独自に看護学博士の学位を授与する博士後期課程において修得すべき能力を表 2 のように提示した。

アメリカ看護大学協議会と同様に、日本看護系大学協議会が博士後期課程において修得すべき能力を提示したことは、今後の国内における看護学の役割やある

表2 日本看護系大学協議会による博士後期課程において修得すべき能力

1. 看護哲学を追求する：自らの看護および人生経験を通して看護観や世界観を深め、普遍性を有する看護哲学として追及する能力
2. 知識や技術を創造する：社会・医療の課題を解決するために、看護学のみならず他の学問領域の知識を活用して、現存の看護学の知識・技術をイノベートし、新たな知識・技術を拡張・創造する能力
3. 発言力をもつ：看護の知識や技術を創造する過程において、その成果や生み出された新しい知見を研究論文として蓄積し、広く社会に発信・浸透させる能力
4. 変革力をもつ：看護の学識者として専門職集団を導き、学際的な研究を通して看護実践を変革するリーダーとしての能力
5. 次世代を育てる教育力をもつ：専門領域に関する知識や新たな知見を次世代に伝え、看護の実践を指導し、看護専門職を育成する教育に携わり、教育方法の改善を探究し続ける能力
6. 看護学を発展させる：看護科学を発展させることや、専門とする学問領域を導いたり、牽引する能力
7. 学際的な視点をもつ：学際的な研究ができ、リーダーになれる能力
8. グローバルに対応する：グローバルな視野・視点をもつ能力

べき姿に大いに影響を与えたと考える。我々は、この能力も視野に入れ、当看護学科の博士課程の構想に取り組むこととなった。

### Ⅲ 三重県と三重大学の現状

三重県内の修士課程は、三重大学（定員16名）、三重県立看護大学（定員15名）、四日市看護医療大学（定員10名）で、修士課程はある程度充足されているが、県内には看護学博士課程は未だ設置されていない。県内の看護学の発展のためには、博士課程の設置は喫緊の課題であった。

本学は、平成14年に修士課程看護学専攻を設置し、地域や国内の社会的ニーズに応えてきた。その後の12年間で修了生は125名となり、専門機関の教育・研究者および高度看護実践者、保健医療現場のリーダーとなり、地域に根ざした保健医療の発展に貢献している。

今回、三重大学医学部看護学科に看護学博士課程を設置することによって、学士課程・修士課程・博士課程へと一貫した看護継続教育の実現が可能となる。つまり、看護専門職としてのキャリアパスが設定され、質の高い看護職の人材が確保できる。三重大学医学部附属病院や三重県内への就職率の向上とともに、保健医療の現場と大学の協働や連携の推進も期待できる。

看護学専攻修士課程までの教育から博士後期課程へと発展させることは、大学院での教育や研究を地域特性の多様性を活かしてさらに高めることにつながる。複雑で個性や多様性の高い超高齢社会に対応可能な新しい看護システムや効果の上がる教育プログラムの開発など、独自性の高い研究成果が期待できる。その成果を地域に還元することで三重県全体の看護の質向上

につながるともに、看護の現場に身を置く者にとって身近に大学院への進学機会が開かれている環境は、モチベーションを保ちつつ、看護の発展と看護現場の質的向上に寄与することとなり、ひいては看護師の定着率向上へと繋がっていく。このように好循環となる地域基盤型教育モデルの創出を目指し、博士後期課程を設置したいと考えた。

また、文部科学省（2014）による国立大学のミッション再定義を踏まえた看護学分野振興の観点にも、「看護学及び医療技術学の学術的追求を通じ次世代のリーダーとなる教育者・研究者養成を推進するとともに、大学病院をはじめとした知的資源を活用した学際的・国際性を重視した研究を推進する。」と明記され、三重大学は教育・研究活動による地域社会の課題解決の機能強化が期待されている。

### Ⅳ 4 大学の比較

本学看護学博士課程を構想するにあたり、既に看護学博士課程を設置している他大学と比較検討した（表3）。比較の対象としたのは山形大学、大阪市立大学、順天堂大学の3大学である。3大学を比較の対象とした理由は、以下のとおりである。本学が博士後期課程を検討し始めた当時、山形大学は国立大学法人の医学部看護学科の中で唯一看護学専攻博士課程を開設している大学であり、大阪市立大学は公立大学として、順天堂大学は私立大学として直近に看護学専攻博士課程を開設した大学だからである。

山形大学は学部設置から4年目に修士課程を、14年目に博士課程を開設している。大阪市立大学は学部設置から4年目に修士課程、6年目に博士課程を、順天

表 3 4 大学の比較

	山形大学大学院医学系研究科 看護学専攻博士後期課程	大阪市立大学大学院看護学研究所 看護学専攻博士後期課程	順天堂大学大学院医療看護学研究所 看護学専攻博士後期課程	三重大学大学院医学系研究科 看護学専攻博士後期課程
沿革	1993 (平成5) 年医学部看護学科 (定員60名) 設置 1997 (平成9) 年医学系研究科看護学専攻 (修士課程) (定員16名) 設置 2007 (平成19) 年医学系研究科看護学専攻 (前期・後期) 課程 (定員3名) 設置	2004 (平成16) 年医学部看護学科 (定員55名) 設置 2008 (平成20) 年看護学研究所修士課程 (定員10名) 設置 2010 (平成22) 年看護学研究所博士後期課程 (定員3名) 設置	2004 (平成16) 年医療看護学部 (定員200名) 開設 2007 (平成19) 年医療看護学研究所修士課程 (定員15名) 開設 2014 (平成26) 年医療看護学研究所博士後期課程 (定員7名) 開設	1997 (平成9) 年医学部看護学科 (定員80名) 設置 2002 (平成14) 年医学系研究科看護学専攻 (修士課程) (定員16名) 設置 2016 (平成28) 年医学系研究科看護学専攻博士後期課程 (定員3名) 開設
後期課程	定員：3名 分野：高齢社会看護学分野 領域：安全・管理支援看護学領域 生涯生活支援看護学領域 授業科目：(18単位) 安全・管理支援看護学領域 高齢社会看護学特論 (2単位) 安全・管理支援看護学研究方法演習 (2単位) 安全・管理支援看護学フィールド実習 (4単位) 高齢社会看護学特別研究 (10単位) 生涯生活支援看護学領域 高齢社会看護学特論 (2単位) 生涯生活支援看護学研究方法演習 (2単位) 生涯生活支援看護学フィールド実習 (4単位) 高齢社会看護学特別研究 (10単位)	定員：3名 分野：看護学分野 領域：生活看護支援システム特講(基礎、地域、老年、在宅) 看護支援システム特講(急性、精神、母性、生育) 感染看護支援特講 看護支援基礎科学特講 授業科目：(14単位以上) 共通教育 (2単位以上) 基盤研究方法論、看護実践研究方法論、組織看護理論 看護学分野 (2単位以上) 演習 (2単位) 特別研究 (8単位)	定員：7名 分野：10分野 看護教育学、看護管理学、感染制御看護学、臨床病態看護学、小児看護学、(地域看護学)、成人看護学、高齢者看護学、母性・助産看護学、精神看護学 授業科目：(18単位以上) 共通科目 (2単位以上) 看護学研究論、国際コミュニケーション、看護と医学・スポーツ健康科学 専門科目 (4単位以上) 看護学演習 (2単位) 看護学特別研究 (10単位)	定員：3名 領域：看護学分野 分野：6分野 看護教育学、実践基礎看護学、成熟期看護学、母子看護学、地域看護学、精神・ストレス健康科学 授業科目：(16単位以上) 共通科目 (4単位) 看護学研究方法論、医療保健統計論 専門科目 (4単位) 看護職生涯教育学特論 高度実践基礎看護学特論、成熟期看護学特論、母子看護学特論、地域看護学特論、精神・ストレス健康科学特論、看護職生涯教育学演習、高度実践基礎看護学演習、成熟期看護学演習、母子看護学演習、地域看護学演習、精神・ストレス健康科学演習 看護学特別研究 (8単位)
前期課程	定員：16名 分野：基礎看護学、臨床看護学、地域看護学 領域：基礎看護学、看護教育学、看護管理学、看護病態機能学 成人・老年看護学(急性期)、成人・老年看護学(慢性期)、精神看護学、母子看護学、地域・在宅看護学	定員：10名 分野：生活看護分野、臨床看護学分野 領域：看護管理・基礎看護学、公衆衛生看護学、老年看護学、在宅看護学 がん・急性看護学、感染・慢性看護学、精神看護学、母性看護学、生育看護学	定員：15名 分野：看護教育学、看護管理学、臨床呼吸病態学、成人看護学、小児看護学、高齢者看護学、地域看護学、精神看護学、感染看護学、がん看護学	定員：11名 領域：基礎看護学、実践看護学、広域看護学 分野：看護教育学、実践基礎看護学、がん看護学、成人看護学、母性看護・助産学、小児看護学、老年看護学、精神看護学、ストレス健康科学、地域看護学

堂大学は3年目に修士課程、10年目に博士課程をそれぞれ開設している。しかしながら、三重大学は5年目に修士課程を開設しているものの、18年を経過してなお博士課程を開設できていない現状があった。

修士課程の定員は、山形大学は16名、大阪市立大学は10名、順天堂大学は15名、三重大学は16名である。博士課程の定員は、山形大学は3名、大阪市立大学は3名、順天堂大学が7名であり、教員数や学部学生定員を考慮しながら大学院教育の質を考えると三重大学の博士課程の定員は3名が適切であると考えた。また、看護学を追求するための分野設定をみると、山形大学は修士課程3分野を博士課程では1分野に、大阪市立大学は修士課程2分野を博士課程では1分野に統合していた。これらを参考としながら、当大学の教育理念や目的・目標に照らし合わせて分野設定を行った。

## V 三重大学大学院医学系研究科看護学専攻博士課程の概要

博士後期課程は、看護学の専門分野から事象の詳細を掘り下げて追究し、他の看護学分野や他の学問領域等と協働しながら、看護学の専門分野における新たな知見を導き出し、独自性豊かで地域に役立つ看護学研究成果を生み出す「俯瞰的視野」をもった人材を育成し、かつ、優れた看護学研究成果を世界に発信することを目的とする。

「俯瞰的視野」とは、物事の全体を見渡して広く要因のつながりを捉えて課題を考究できる能力をいう。例えば、看護学の専門分野の思考で捉えた事象の知見に対し、他の学問領域等の知識を取り込んで看護学の視点に戻り、事象を捉え直すことで新しい発想を生み出すことを俯瞰的視野の獲得と考える。そのためにグローバルな連携による先進的な研究成果をあげている本学医学系研究科と産学官連携による革新的な研究成果をあげている本学地域イノベーション学研究科に蓄積された教育・研究資源を取り入れ、看護学専門分野の研究を発展させるための教育・研究体制をとる。

複雑・多様化している社会のなかの健康問題に関する事象の全体像をとらえ、必要とされる介入を導き出し、より本質的に看護学研究のありかたを追究できるように専門領域を設定することが重要であると考え、博士前期課程（修士課程）の3領域を統合し、1領域として「看護学領域」を設定した。

念願であった看護学博士課程がようやく開設されることになり、今後は運営や学生確保に向けた取り組みが課題となることが予想される。博士課程の運営にあたっては、三重県内の看護大学（三重県立看護大学、四日市看護医療大学、鈴鹿医療科学大学）との連携が不可欠である。看護学博士課程を軸とし、4つの大学が連携して三重県内の看護の質向上に貢献できることを期待する。

## 謝 辞

看護学博士設置にあたり要望書をいただいた、三重県看護協会、三重県、鈴鹿医療科学大学看護学部にお礼を申し上げます。

## 文 献

- American Association of Colleges of Nursing. (2006). The Essentials of Doctoral Education for Advanced Nursing Practice. 1-28.  
<http://www.aacn.nche.edu/dnp/Essentials.pdf>
- American Association of Colleges of Nursing. (2010). The Research-Focused Doctoral Program in Nursing Pathways to Excellence. Report from the AACN Task Force on the Research-focused Doctorate in Nursing. 1-33.  
<http://www.aacn.nche.edu/education-resourceDs/PhDPosition.pdf>
- Fink, D. (2006). The Professional Doctorate: Its Relativity to the Ph.D. and Relevance for the Knowledge Economy. *International Journal of Doctoral Studies*, 1, 35-44.
- 黒田裕子 (2005). 看護学博士のつくり方, 活かし方. 学研プラス.
- Magyary, D., Whitney, J.D., Brown, M.A. (2006). Advancing practice inquiry: Research foundations of the practice doctorate in nursing. *Nursing Outlook*, 54(3), 139-151.
- 文部科学省 (2014). 参考資料2 今後の国立大学の機能強化に向けての考え方  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/kokuritu/gijiroku/attach/1350913.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/kokuritu/gijiroku/attach/1350913.htm)
- 文部科学省高等教育局医学教育課 (2015). 看護学教育の動向と今後の課題. 第8回国立大学保健医療学系代表者協議会看護学分科会資料.
- 日本看護系大学協議会 (2014). 看護系大学院における教育の基準策定と評価に関する調査研究報告書.

